

令和7年1月30日

保護者様

北九州市立広徳中学校
校長 児島 誠

令和6年度全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、3年生を対象として、令和6年4月18日（木）に「教科（国語、数学）に関する調査」、文部科学省が指定した日（4月10日から4月30日の間）に「生徒質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

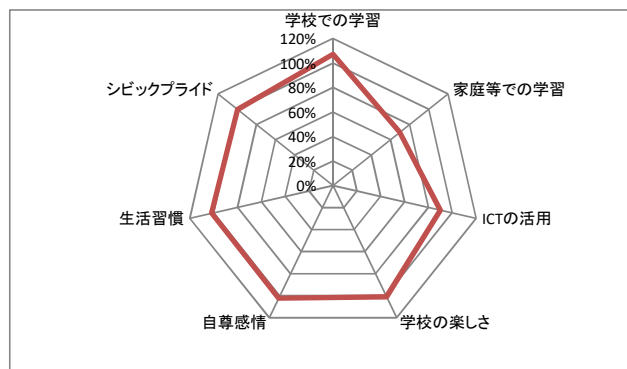
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析（傾向や特徴）	全国平均正答率との比較
国語	・書くことの問題や、我が国の言語文化に関する問題の平均正答率が全国平均を上回っている。一方で、言葉の特徴や使い方に関する事項や、話すこと・聞くことについて課題が残った。話し合い等の言語活動を工夫することが必要である。	下回っている
数学	・関数や数と式についての問題に関して、平均正答率が全国平均を上回っている。一方で、データを活用・分析するとともに事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる問題に関して、課題が残った。	下回っている

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



質問調査の結果分析
・「自分には、よいところがあると思いますか」「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」との問いに対して約90%の生徒が肯定的に回答しており、自尊感情の高い生徒が多い。
・「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」「授業では、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか」との問いに対して肯定的回答が全国平均を大幅に上回っており、学校での学習に対して努力している姿勢がみられる。
・「学校の授業時間以外（平日や土日を含む）に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」と回答した割合が低かった。今後は、家庭学習の充実に向けた取り組みを啓発していく。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

・主体的・対話的で深い学びや個別最適な学びが、生徒の自己有用感等に影響を与えることを踏まえ、「できた（達成）」「わかった（理解）」「おもしろい（興味）」と思える授業にするためにも、ICT機器の活用をもっと進めていく。具体的には、①考えをまとめ、発表・表現する場面での活用、②課題解決に取り組む学習活動での活用、③家庭学習での活用、を図る。

② 家庭生活習慣等に関する取組

・家庭学習の定着を図るために、自主学習ノート（K-work）の徹底・活用を周知する。また、小中一貫教育として、小学校高学年から取り組めるように推進していく。

・スマートフォンやSNSの正しい使い方について、関係機関や協力企業と連携し、講演による情報提供や啓発活動を行う。